令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
人間文化学部 国際文化学科 （地域創生学部・ 地域文化コース）	植村　広美 鄭　　銀志	R2.12.9（水） 10：40～12：10	Teams における オンライン会議	**テーマ：**　オンライン授業における効果的なアクティブ・ラーニングの実施に向けた検討 **実施目的：** オンライン授業における教育効果の高いアクティブ・ラーニングのあり方を模索し，教育内容を改善するための組織的な検討を試みる。 **キーワード：** オンライン授業，アクティブ・ラーニング，自修支援 **実施内容：** 各教員が今年度のオンライン授業において，どのようなアクティブ・ラーニングを実施してきたのか，また，その際にどのような工夫を施し，それが学修状況にどのような変化を及ぼしているのか，ということについて全教員による実践報告を行う。さらに，質疑応答・意見交換を行い，オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングという新しい教育方法のさらなる改善に向け，各教員が今後より具体的な方策が講じられるような提言を導き出すことを目指す。
地域創生学部 地域創生学科 健康科学コース 人間文化学部 健康科学科	石橋ちなみ 岡田　玄也 鍛島　秀明 山縣誉志江 松本　拓也 杉山　寿美 山岡　雅子 森脇　弘子	令和２年４月～令和３年３月 （4/2（木），4/15（水），4/21（火），5/20（水），6/17（水），7/15（水），9/19（水），10/21（水），11/18（水），12/16（水），1/20（水），2/17（水），3/17（水））	広島キャンパス 会議室 各研究室 （オンライン会議を含む）	**テーマ：** ハイブリッド授業への組織的取り組み **実施目的：**実施主体の学科・コースでは，実験実習が多く，オンラインと対面による組織的教育を効果的に実施する必要がある。そこで，ハイブリッド授業の環境整備と授業方法の組織的検討を試みる。 **キーワード：** 実験実習，ハイブリッド授業，組織的教育 **実施内容：** 前期は，オンライン授業についての情報共有の会・研修会を開催し，さらに実験実習の対面授業にむけて３密を避けるための環境の整備を検討した。 後期は，ハイブリッド授業（主に実験実習）の実践報告と授業改善にむけた質疑応答・意見交換を行い，具体的な方策について検討した。 これらより，健康科学コースおよび健康科学科の実験実習におけるハイブリッド授業の環境整備と効果的な授業方法を組織的に検討した。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
経営情報学部 経営学科	朴　　唯新 村上　恵子	R2.4.15（水） 10：40～12：10 R2.5.13（水） 10：40～12：10	1239 講義室 Teams における オンライン会議	**テーマ：** 教育の質を確保するオンライン授業の実施方法の検討 **実施目的：**履修者数が比較的多い経営学科開講科目におけるオンライン授業の質の向上及び改善を目的として，各教員の取り組み内容を共有し，オンラインでの教育・指導方法を検討する。 **キーワード：** オンライン授業，教育方法，情報共有 **実施内容：** 履修者数が比較的多い経営学科専門授業科目を中心に，オンライン授業の方法や注意点について学科全教員で意見交換し，効果的な教育・指導方法を検討した。 具体的には，毎月１回の学科会議に合わせて，全教員がオンライン授業の方法やオンライン授業を行う上での注意点，ユニークな取り組み等について報告した。特に課題の出し方や双方向対話型学修の取り入れ方，学生とのコミュニケーションの取り方等を中心に情報を共有した。報告後は質疑応答を行い，各教員が参考とすべき点，工夫や改善が望まれる点などについて，全教員で意見を交換した。
地域創生学部 地域創生学科 地域産業コース （応用情報） 経営情報学部 経営情報学科	広谷　大助 佐々木宣介 重丸　伸二 冨田　哲治	9 月 30 日（水） 2 月 9 日（火） 2 月 10 日（水）	オンライン （Teams 会議）	**テーマ：** 経営情報学専門演習におけるオンライン中間発表会による教育効果の評価と検証 **実施目的：** 学科で令和元年から導入している中間発表会を，本年度オンラインで行うための対応を行った上で内容を充実させ，振り返りシート及びルーブリックを利用して自身の研究内容について振り返り・自己評価をすることで，研究状況および成果を客観視して把握し経営情報学専門演習の更なる充実を図り，かつ学生の満足度を更に高めることを目的とする。 **キーワード：** オンライン実施，ルーブリック，振り返りシート，自己評価 **実施内容：** 経営情報学科では卒業論文に相当する経営情報学専門演習において 3 年次にゼミに配属され，4 年次 2 月に実施される卒業論文発表会に向けて，各研究室で指導が行われている。令和元年度から，新たに学科全体で中間発表会を導入し，実施内容や評価基準の統一を図っている．今年度は，コロナ禍の影響を受けて，昨年度のような対面での実施が困難であるため，Microsoft Teams を利用したオンラインで 9 月 30 日（水）に学科全体で中間発表を実施した．オンラインでもできるだけ対面に近い形態となるように，かつ，オンラインであることの特性を活かせるように，次の要領で発表会を運営・実施した．セッションは２つに分けて，同じセッションでは個人毎にチャネルを作成し，ゼミ単位でまとまるようにナンバリングをした．各チャネルに教員・学生が参加して発表を行うが，教員の参観については事前に割当を決めておくことで偏りが生じないようにした．中間発表会後には，これまでの卒業論文の成果，ポスターセッションで質問・指摘を受けた点，他の発表を見ての気づき，卒業論文に対する今後の課題と改善点を，振り返りシートにまとめ，今後の研究活動に活用した．また，ルーブリックによる自己評価（６項目）を用いて，中間発表会から 2 月 9 日（火）と 10 日（水）の最終発表会までの自身の成長を数値化した．最終発表会の実施方法については，当初は，対面＋オンラインのハイブリッド型で準備を進めていたが，全学方針を受けて完全オンラインに変更して実施となった．最終発表会においても，オンラインでもできるだけ対面に近い形態となるように，かつ，オンラインであることの特性を活かせるよう，中間発表と同様な工夫をして実施した．ルーブリックの結果は集計して可視化することで，学生の成長度合いを定量的に評価した結果，全ての項目で中間発表よりも最終発表が上回った．しかし，全ての項目で昨年度より低下した．これらの原因については，今後も継続して検討していく．昨年度からの変更点として，中間発表の時期を 9 月に前倒しして実施した．その結果．スコアの上昇幅が大きくなっていた．このことから，前倒しには一定の効果があったものといえる．一方，プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力が昨年度と比べ大きく低下していた．対面とオンラインで実施方法が異なるため，単純比較はできないが，この点についても今後も継続して検討をしていく必要がある．振り返りシートの記載内容は，テキストマイニングを用いて，学生が感じた課題，他者発表に対する気付きを共起ネットワークで可視化した．これより，学生が自身の発表および他者の発表から学んだことを読み取ることができた．分析結果を学科教員で共有するとともに，来年度の発表会運営に向けた課題の抽出を行った．この取り組みを通じて，各ゼミにおける研究指導の充実へ活かすことにつながると期待できる．

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
生物資源科学部 地域資源開発学科	荻田信二郎 原田浩幸 森永力	2020.6.18 2020.8.2 2020.8.31-9.4 2020.9.14 2020.10.16 2020.11.24	オンライン (Teams 運営) 学科 HP 対面 (2201 教室)	**テーマ：異文化体験を効果的にするための事前学習プログラムの開発** **実施目的：**当学科では 2 年次配当の必修科目「国際異文化農業体験研修」において，全員が海外での研修を行う。効果的に研修を行うには，事前学習として，どのような段階を踏んで教育するのが良いのか，教員全員でケアしながらグローバル感覚を育てる。 R2 年度「国際交流推進事業（短期受入プログラム事業)」に，”新カリキュラム「国際異文化農業体験研修」に対する目的意識の定着”が採択されたので，実践しながら成果を出す。 **キーワード：グローバル；コミュニケーション；異国文化理解** **実施内容：**先端的な農業の研修ができる情報を収集し，協議の結果ベトナムタイグエン大学（Thai Nguyen University of Agriculture and Forestry (TUAF)を研修場所とした。R2 年度の取り組みとして，本学と TUAF 協働で Web 会議や交流を企画する。教員にとっても海外校との交渉は，良い経験となる。また，得た情報を学生にいかにわかりやすく周知するか，アンケートをとりながら検討する。 ・【地域資源】「R2 入学 1 期生_国際異文化農業体験研修プロジェクト」チームを　8 月 2 日に立ち上げ、学生 42 名および全教員が参加できる一般チャネルと教員のミーティング用チャネルを運営した。 ・チームへの参加、説明を投稿した後、8 月 31 日～9 月 4 日　海外経験や英語資格などのアンケートを Forms で実施して、学生の交際交流に対する現時点での考え方を調査した。 ・9 月 14 日　アンケート結果を全体に共有するとともに、渡航準備に関する外務省や広島県の関連 HP を紹介するなど意識向上に努めた。 ・10 月 16 日　外務省　海外安全のページおよびベトナム大使館のページを紹介し、情報収集を促した。 ・同情報取集結果を回答する Forms 調査を実施した。これを以って　11 月に開催するオンライン講演会への意識醸成に努めた。　11 月上旬まで収集。 ・11 月 24 日　研修先のベトナム TUAF を Zoom でつなぎ、日本側は対面講義として国際交流を実施した。これに先立ち　内部としてＦＤ打合せを重ねた。必要に応じて先方担当とのオンライン打合せも実施した。 ・当日はベトナム Thai Nguyen 大学の Dr. Hoang Thi Bich Thao 先生をお招きして Zoom で双方向接続，英語での講義を行って，異文化や海外の大学のことを身近に知る機会を企画した。また研修内容の説明を対面で行った（この取り組みは大学ＨＰにて広報している)。 追加説明：講演のビデオをアップして常時閲覧可能である他、12 月以降も、適宜情報発信、ベトナムからのグリーティングメッセージなどの紹介を行っており、オンラインシステムならではの実践は行うことができたと考えている。なおコロナ禍において十分な対面指導は出来ておらず、また今後実施に向けた学科内 FD は継続して進める必要がある。　本成果は 2 期生の指導にも活かしていきたい。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
生物資源科学部 生命環境学科 生命科学コース	齋藤　靖和	9/30,11/25,12/2, 12/9,12/16, 1/13,1/20	大講義室（対面）+ オンライン・オンデマンド	**テーマ：** **コースで学べる分野の理解と学びへの意識づけ**～コース選択および研究室配属を見据えて～ **実施目的：**コース選択及び研究室配属を１年次から意識させ，コース選択および卒業研究へ向けた行動を初年次からスムーズに開始できるようサポートする。 **キーワード：** **分野理解，学びの意識づけ，将来像** **実施内容：** 本年度より新たに立ちあがった生命環境学科には，生命科学コースと環境科学コースの２つのコースが存在している。カリキュラム上，１年生の段階では共通科目も多く，所属コースで学ぶことのできる具体的な専門分野や研究領域，将来像など，コースの特徴や違いなどについてふれる機会はほとんどない。一方で，早期からコースでの学修・研究内容を理解し，将来像を考えることは１年次以降の学びに対する意識づけやモチベーションにとって重要である。そこで，学生の分野理解と学びへの意識づけをサポートする機会を設けることを本テーマの目的とする。また，経過選択枠で入学した学生にとって，両コースの学修内容や所属教員について時間を設けて知ることができる機会を作ることは，自身のコース選択において大事な判断材料となるはずである。 具体的には，生命環境科学基礎セミナー（１年 3,4Q必修）の前半を環境科学コース，後半を生命科学コースが担当とし，それぞれのコース特性を踏まえた内容で１年生のこれからの学びやその方向性をナビゲートする。本活動の実施主体となる生命科学コースでは，主に 4Q においてコースでの学修分野や研究領域，将来像，そして所属教員自身を理解してもらうことを目的に，各教員それぞれの見地から研究分野やその魅力，１年生へのメッセージ等を含んだオンデマンド資料を作成し，学生に視聴させ，学生の理解を促し，興味を抱いてもらいたいと考えている。 本来なら対面式により，教員の熱量も併せて伝えたいところだが，長時間の連続講義では集中力が続かないこと，授業スケジュールが年末年始を挟んでおり，新型コロナウイルス感染予防等の観点から，本年はオンラインオンデマンド方式とする。オンデマンド方式とすることで，好きな時に視聴でき，気になる教員の資料は繰り返し視聴もできるというメリットも生じる。 実施後の授業アンケート結果のコメント欄にも，「先生方の研究室について知るのにとても良い」，「研究室選択の大きな参考になった」，「将来の研究室配属のためのきっかけとなった」など狙いに合致したコメントが複数寄せられており，一定の成果があったと考えている。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
生物資源科学部 生命環境学科 環境科学コース	大竹　才人	年 10 回程度	teams 会議、及び 1701 号室・各教員研究室	**テーマ：** 新カリキュラムにおけるキャリア形成の意識付けと体系化
				実施目的： 新１年次より始まる新カリキュラムにおいて、環境と社会との関りを理解させて将来への自律的なキャリア形成を目指したカリキュラムの設計を行う。
				キーワード： オリゼミ、生命環境基礎セミナー、環境科学セミナー、キャリア形成
				実施内容： 新カリキュラムの施行にあたり、キャリア形成に関わる科目群について、その学びの一連の体系化と設計を行った。オリゼミから始まり、大学基礎セミナーⅠ・Ⅱを踏まえたうえで受講される生命環境基礎セミナー、各コース配属後の環境科学セミナー、その翌年から開始される研究室配属、そして就職までの一連のプロセスを統一的に捉えた体系化の構築に取り組んだ。このプロセスに、実験実習や学外研修、専門科目を有機的に組み込むことにより、環境科学コースと社会との関りについて深い理解に達して、将来へ向けた自律的なキャリア形成に結び付ける内容である。次年度においても、新カリキュラムにおけるこのようなカリキュラムの実施とアンケート結果のフィードバックにより、引き続き FD 活動を続ける予定である。
研修部門 保健福祉学部 委員会	細羽竜也 吉田和美 佐藤勇太 吉岡和哉 渡辺眞澄 大下由美	令和 3 年 2 月 17 日（水）4 限	三原キャンパス (オンライン研修)	**テーマ：** コロナ禍における医療・福祉従事者養成のための実習の取り組みと課題
				実施目的：各学科における実習代替の方法，課題を共有し，互いに今後の教育に役立てる。
				キーワード： 専門職養成教育，オンライン実習（ハイブリッド型実習も含む），行動型学修
				実施内容： 「県立広島大学アクティブ・ラーナー育成研修体系」に基づき，ハイブリッド型授業における実習教育ののための効果的な教授法を共有し，大学での専門職教育の充実に寄与する資質・能力の育成に役立てるための研修を実施した。研修では保健福祉学部各学科から 10 分程度，ハイブリッド型の実習教育についてプレゼンテーションを行い，司会者及びフロアとのディスカッションを行った。研修用のオンラインツールとして Teams を用いた。 Teams での参加確認最大数 84 名であり，その後の事業評価も 2 月 24 日段階で 57 の返信があった。研修の結果，オンラインでの実習教育の工夫や課題について共有できるとともに，「主体性」「協働性」「授業デザイン力」「実践的な指導力」「情報収集・分析力」といった参加者の教育能力の向上にも有益だったことが明らかになった。 今後とも全学的な研修のみならず，学部での研修を実施し，学部で協働して，専門領域の教育力の向上にも，取り組んでいく予定である。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
保健福祉学部 看護学科	教育課程検討会 青井　聡美	令和２年 ①3 月 30 日（木） ②5 月 22 日(金) ③6 月 19 日(金) ④7 月 17 日（金） ⑤9 月 16 日(火) ⑥10 月 2 日（金） ⑦11 月 27 日（金） ⑧12 月 24 日（木） 令和３年 ⑨1 月 14 日(木) ⑩2 月 3 日(水) ⑪3 月 9 日（火）	Teams オンライン会議	**テーマ：** 教育内容の充実 **実施目的**：看護実践能力の育成に向けて学修成果の把握と可視化を図り，学生自身が主体的に学修できるツールを作成する。また，看護教育の評価システムを構築し，教育の質の向上と質保証を図る。 **キーワード**： カリキュラム評価　ポートフォリオ　国家試験対策　学修支援アドバイザー **実施内容：** ①看護技術ポートフォリオの作成 「看護師基礎教育の技術項目と失業時の到達度」（H31 改正案/厚生労働省）の 13 の看護技術項目をもとに、本大学のオリジナリティを追加した全領域が共通で使用する看護技術の卒業時到達レベル一覧表を作成した。看護技術ポートフォリオは、学生が 4 年間使用する臨地実習要綱に収録させ活用していく。 ②カリキュラム評価の検討 看護学科カリキュラムマップ、3P の関係の図式化、DP 評価ルーブリック作成の検討を行った。3P の関係の図式化はほぼ完成し、学科教員の合意を得る段階にある。DP 評価ルーブリックについては、検討中であり、次年度完成を目指す。 ③学修支援アドバイザー（卒業生）の運用方法の検討 　令和 2 年度学修支援アドバイザーとして 8 名（授業支援 7 名・授業外の学修支援 1 名）が活動し、その成果や自己の課題を明らかにしている。また、卒業生による学修支援アドバイザーの運用を検討し、実施要領を作成した。次年度より、運用していく。 ④国家試験対策（国家試験模試を除く）の検討（看護師・保健師） 　津森教授の協力を得て「解剖学セミナー」を 2 回開催した。また、学内で国家試験勉強を希望する学生には、感染対策を行った上で演習室を確保し学修環境を整えた。今年度の国家試験の自己採点結果については、模試の結果と合わせて集計・評価を行い、次年度の対策を検討する。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
保健福祉学部 看護学科	実習検討会 吉田和美	テーマⅠ 年１回書面開催 （令和２年４月） テーマⅡ 計 11 回開催 令和２年 ①4 月 17 日（金） ②5 月 27 日(水) ③6 月 25 日(木) ④7 月 16 日（木） ⑤9 月 14 日(月) ⑥10 月 12 日（月） ⑦11 月 16 日（月） ⑧12 月 8 日（火） 令和３年 ⑨1 月 15 日(金) ⑩2 月 4 日(木) ⑪3 月 10 日（水）	テーマⅠ 書面発送 テーマⅡ Teams オンライン会議	**テーマ：** テーマⅠ：実習指導担当者との前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有 テーマⅡ：臨地実習教育の充実 **実施目的：**実習にかかわる教員と実習指導担当者で情報共有を行い，臨地実習における学生の現状と課題を把握，共有し，円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。 **キーワード：** 臨地実習，教育方法，情報共有 **実施内容：** テーマⅠ：新型コロナウイルス感染症拡大の状況から，実習指導担当者協議会は書面開催とした。前年度実習の成果と課題・今年度臨地実習に関する情報共有を行った。 テーマⅡ：臨地実習教育の充実 実習指導担当者協議会の企画・運営，次年度臨地実習要綱の作成，次年度実習計画の策定・施設への依頼，臨地実習に求められる感染症予防対策，臨地実習で必要な消耗品等の一括管理，SNS における個人情報取り扱いの啓発を行った。特に，新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い，対策ガイドライン・実習説明書・承諾書等の作成に向けて，看護学科全体での検討に中心的役割を担った。また，臨地実習要綱の作成では，令和３年度カリキュラム開始に応じた変更点と学生のレディネス形成を促す教育方法の明記を充実させた。会議ごとに各臨地実習報告を行い，実習指導上の問題点や指導内容について情報共有及び意見交換を行い，実習指導体制や実習施設の環境の充実を図った。
保健福祉学部 看護学科	看護学科 FD 担当 吉田 和美	令和２年 9 月 26 日（土） 13:30-17:30 令和２年度後期 3 月 31 日（水） ①13:00～ ②13:30～	Teams オンライン会議	**テーマⅠ：**パフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修 **実施目的：**卒業時の到達目標（DP）の達成に向けて，看護実践能力を育む学修方法と，それらを評価するためのパフォーマンス評価と評価指標（ルーブリック）の作成方法に関する学修をおこなう **キーワード：** 授業設計，パフォーマンス評価，組織的教育 **実施内容：** ①パフォーマンス評価の進め方（パフォーマンス課題やルーブリックの開発）に関する研究に先駆的に取り組まれている京都大学教育学研究科教育学環専攻教育・人間科学講座教授の西岡加名恵氏を招致し「パフォーマンス評価の考え方・すすめ方」の教授を受け，教授された内容を自己の授業への取入れを検討するワークショップの開催を行った。26 名の教員の参加があった。参加者からは「具体例があり理解しやすかった」「授業の改善に取り組みたい」「グループワークで共有しよく理解できた」等の反応を得た。「ポートフォリオ評価についてもっと知りたい」等の反応もあったため，今後の研修企画を検討していく。 ②ミニセミナーの開催により，看護学科内でのパフォーマンス課題を取り入れた授業や評価指標の実践例を共有し，看護実践能力を育む学修方法や評価方法の導入に関する情報交換を促進することを目的とした。今年度は「ルーブリック作成セミナー」と題し，学科内の実習科目でルーブリック評価を導入している 2 領域に作成過程と活用について紹介して貰う内容とした。セミナーには 27 名（内，事後録画閲覧参加 2 名含む）の教員が参加した。セミナー後の感想では「開催時期がとても良かった」「ディスカッションを通して練り上げることが大切と思った」などがあった。また，「モデルコアカリキュラムとの関連を考えなくて良いか」「コア・コンピテンシーで統一するなど，コースで一貫した方向性を持たなくて良いか」等の意見もあったため，今後，看護学コース内での方針をどのように決定していくのかを検討していく。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
保健福祉学部 理学療法学科	佐藤勇太	（前期） 毎週水曜日４限 （後期） 毎週水曜日１限	Teams 内	**テーマ：** 「学生の動向を把握・共有する」,「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」 「各教員の研究領域の紹介」
				実施目的：「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」,「コロナ禍での授業形態・方向性の共有および改善」,「最新の知見を踏まえた専門教育の充実を図る」
				キーワード： 学生生活，国家試験，指定規則
				実施内容： （１）「学生の動向を把握・共有する」について オンライン講義等の導入により，対面の機会が少なくなったことに伴い，各チューターを中心にこれまで以上に学生の動向を把握するよう努めた。また，各学生の情報を共有することで，指導・援助の一貫化を図った。各学生の状況は，毎週の学科会議にて各学年担当のチューターから報告され，配慮が必要な学生については，各担当教員を中心に詳細な報告・情報共有をし，協議を行った。臨床実習の時期には，臨床実習指導者や教員が連携し，学生状況の把握・共有を図った。 （２）「コロナ禍での講義の形態・方向性を吟味する」について オンライン講義等の導入により，これまでの講義形態とは異なる教授方法の知識・技術が必要となることも踏まえ，専門教育のさらなる充実を図るために，講義内容，学生指導のあり方について検討を行った。また感染予防対策をより効果的に実施していくための情報共有を実施した。学科会議において，国家試験模試の結果を共有し，国家試験に向けた講義等に活用した。学科会議に合わせて月１回程度，各種教授法の実践例紹介などを通して情報共有し，今後の講義を吟味した。また，指定規則改定に伴う実習体制の検討や教育プログラムの構築，新施設基準に即した教育物品の購入・充実化を適宜検討した。 （３）「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果の共有や最新のトピックスを紹介することを通じ，研究・教育能力の向上を図った。学科会議に合わせて月１回程度，各教員の研究紹介などを通して実施した。 （１）（２）（３）の内容は，個人情報を含む学科特有の内容についての議論が必要である。このため，総合的に判断し，今年度の公開は見送った。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
作業療法学科	吉岡　和哉	3 回実施 実施日 12 月 16 日 1 月 20 日 3 月 10 日 時間 12:30～13:00	リアルタイム オンライン (Teams)	**テーマ：** 作業療法養成教育内容および臨床実習教育の充実 **実施目的：**オンライン授業や教育内容の振り返りを行い学内教育の向上を行う. また，臨床教育を行う病院や施設との連携できることで養成教育の充実を図る. **キーワード：**オンライン授業の実施方法，　臨床実習教育，国家試験対策 **実施内容：** 1. オンライン授業の実施方法について情報共有 オンライン授業の実施方法について情報共有を行い，今後の授業実施方法についての課題や利点などについて検討を行なった. 2. 臨床実習教育 指定規則の変更に対応できる実習形態の変更とともに実習先の病院や施設と連携を図りながら，よりよい臨床実習教育の充実について検討した. 3. 国家試験対策 国家試験全員合格に向けて学科教員がそれぞれの役割を担い，学修をサポートできる体制を構築してきた．模試の成績や学修状況に応じてい更にサポートが必要な学生について情報共有を行い個々に合わせた学修方法やサポートについて検討した.
コミュニケーション 障害学科	渡辺 眞澄	令和 2 年度 全期間	リアルタイム オンライン (Teams)	**テーマ：** 年間を通じた学科での教育改善活動 **実施目的：**教育の質の向上を目的として，各教員が行っている研究・教育活動，実施・参加した FD に関する研修などの内容を共有する。さらに，教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として，年間を通して教育課程の改善について検討を行う。 **キーワード：** 教育の改善，研究活動情報共有，伝達講習 **実施内容：** 2021.2.1 および 2021.2.18：岡山 SP(Simulated Patient)研究会との意見交換会 模擬患者(SP)演習による指導上の工夫点等についての意見交換が行われた。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
人間福祉学科	大下由美	令和２年／令和３年	Teams	**テーマ：** 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育のスキル向上を図る
				実施目的：学科教員内でオンライン・スキルの共有とレベルの向上を目指す
				キーワード： オンライン教授法
				実施内容：本年度人間福祉学科では，以下の活動を行った。 学科教員のオンラインでの授業スキルの共有と向上に向けて，オンラインでの授業スキルの相談窓口“オンライン・マルシェ”を立ち上げ，基本的なスキルの共有や課題解決をはかった。
人間福祉学科	大下由美	（１）令和２年 9.15～10.9(社福) 8.17～9.4(精神) （２）令和３年２月３日	Teams	**テーマ：**社会福祉士・精神保健福祉士養成教育のスキル向上を図る
				実施目的：学科教員内で教授内容の共有と教育レベルの向上を目指す
				キーワード：アクティブ・ラーニング，オンライン教授法，ピア・レビュー
				実施内容：本年度人間福祉学科では、以下の２つのピア・レビュー活動を行った。 （１）今年度は，社会福祉実習及び精神保健福祉実習をオンラインで実施することになった。両実習の代替措置プログラムの授業内容について，教員間相互で振り返りながら実施した。社会福祉実習では，高齢者分野と児童分野で担当教員を分け，教授内容を相互に吟味し，授業終了後は振り返りを行った。精神保健福祉実習においては，実習代替授業プログラムの内容と教授方法について，担当教員を小グループに分け，各日の授業内容を相互の議論の上で決定し，担当教員間でも事前事後の相互レビューを行った。 （２）福祉実習と精神実習の代替措置プログラムの実施内容とその成果を，学科教員全員で相互に振り返る研修を実施した。それぞれの実習プログラムで工夫された教材準備や教授方法，および学生のアクティブ・ラーニングへの成果を共有した。

令和２年度 県立広島大学 学部・学科（専攻）等によるＦＤ活動（教育改善）報告書

ＦＤ活動 実施主体	コーディネーター 氏　　名	日　時	実施場所	実　施　内　容　等
全学共通 教育部門	岡田　高嘉	令和２年度 授業期間中	全学	**テーマ：** 大学基礎セミナーＩの全学的な実施 **実施目的：**新課程における「大学基礎セミナーＩ」の授業目標や内容を全学的に統一し，着実に実施することで，大学教育で必要となる種々のスキルを学生に身に付けさせ，学生の効用を高めることを目指す。 **キーワード：** アカデミック・スキルズ，アクティブ・ラーニング，大学生活 **実施内容：** 令和２年度の大学基礎セミナーＩはすべての回をオンラインで実施した。毎週，理解度や目標到達度などを調査するための web アンケートを実施した。第１週から第３週までの「全体講義」においては，講師の先生方に本時の授業にかかる質問項目をお考えいただき，第４週から第７週の「個別演習」では次のような標準的な項目を設定した。(1) 講演内容または学習内容について理解できたか，(2) 講演内容または学習内容は今後に活かすことができるか，(3) 講演内容または学習内容に対する質問・疑問，(4) 講演内容あるいは学習内容に対する感想・意見，である。 アンケートへの回答を授業への出席とみなしていたため，回答率は 96%以上であった。上記 (1) 及び (2) の質問項目に関する全週（全７週）の平均値は，それぞれ 4.68 と 4.74 であった（５点満点）。アンケート集計結果（自由記述を含む）は，毎週，この授業に関与するすべての教員（３キャンパスで総勢 37 名）に周知し，各々のキャンパス代表の先生方が中心となり，翌週以降の授業で活かすこととした。学期内での授業改善が着実に実施されたと考えられる。 結果として，学期末の授業評価アンケートの結果は総じて高く，初めてのオンライン授業でありながら，当初掲げていた授業目標をクリアすることができた。